

作成日：平成 26 年 11 月 12 日

報告者：福島っこ元気村キャンプ実行委員会 委員長 堀内拓馬

2014 夏 福島っこ元気村キャンプ実施報告

この夏のキャンプが終わり、早くも 2 ヶ月が経とうとしています。今回、元気村始めて以来の出来事が 2 つあって、ようやく報告をまとめるに至ります。改めて写真や、動画を眺めると、この夏の思い出が昨日のこのように蘇ってきます。さてこの夏がどういうキャンプだったのか、みなさんにお伝えさせていただきます。

概 要

6 回目をむかえた元気村キャンプ、24 名の子供たちが福島、郡山、安達太良から参加しました。内 9 名が初参加で、女の子が 13 名、男の子が 11 名と、初めて女の子の参加が上回ったキャンプとなりました。

経 緯

リピーターで参加していた子供たちの多くが、この春、中学生になり、キャンプに参加できなくなりました。そうした関係で新たに募集をしたところ、リピーターの子供のお友達や兄弟、ネットから応募のあった子供たちが増えました。僕らのキャンプに関していえば、女の子は少なかったのですが、保養キャンプが一般化するにつれて低学年の女子でも参加するようになってきているのかもしれない。

キャンプ期間中の様子

この夏のキャンプの様子はこちらにまとめました。子供たちの様子、どうかご覧ください。

福島っこ元気村キャンプホームページ キャンプ報告

<http://fuku-genki.minnanomori.org/pastcamp.html>

■全体として

第 2 期を向かえた元気村キャンプ！

「最低でも 5 年は継続するぞ！」と始めたこのキャンプ、今回でちょうど後半に差し掛かったこととなります。参加する子供たちの顔ぶれも変わり、低年齢化と、女の子が増えたことが大きな変化でしょうか。これまでの 5 回を第 1 期とすると、今回からは第 2 期とも呼べるような子供たちの変わりよう。するとこれまでとは違ったことが起こりました。

子供たちの力関係が変わった！

これまでは男の子が多く、また年長で、リピーターの子供がいたため、子供たちの間での年長者から年少者までの力関係が存在し、その中で子供同士が面倒をみたり、みられたりがありました。今回、低年齢化したこと、新しいお友達が増えたことで、そうした力関係の構造、ヒエラルキーに変化が生まれました。これまでの関係が少しリセットされた感じでしょうか。上下関係が少なくなり、対等に近い横の関係が増えました。

夏は水遊びがとにかく楽しい！

ホームページの動画をご覧いただければお分かりになると思いますが、夏はとにかく川遊びがとても楽しいです。子供たちのテンションの上がり方をみればよくわかります。福島で川遊びを制限されていることがどの程度影響しているかわかりませんが、ほかの保養キャンプをみても、水遊びのときの福島っこのはしゃぎようは一緒にいて本当に嬉しくなるくらい楽しそうです。今回は2回川遊びをしました。この点で子供たちのよい夏休みの思い出になったかな？と思います。

「やりたいキャンプ！」の実現

前回の春のキャンプで、子供たちからキャンプでやりたいことを発表してもらいました。

2014 春キャンプ 6 日目 <http://fuku-genki.minnanomori.org/cms/?p=5271>

今回はその中から「お菓子づくり」と「着衣水泳」をやってみました。毎回やっているのですが根強い人気のお菓子作り、今回もダンボールオープンを使って行いました。施設にオープンがない中で、こうした知識、経験を持ち寄ってくれるスタッフのおかげで実施できました。また着衣水泳ですが、これは震災時の津波の状況から「服を着たまま泳ぐ技術を持っていれば、もっと多くの人があつたのではないかと考えた子供の発案でした。なかなか場所と指導者の確保が難しかったのですが、今回は無理を言って忍者に川でのし泳ぎを教えてもらいました。

忍者についてはこちら <http://fuku-genki.minnanomori.org/cms/?p=7694>

■運営面

夏キャンプの難しさ

これまで2度の夏キャンプを運営してきて、夏の野外活動における体力消耗の激しさは痛感してきました。そのため、全体の日程を春に比べかなり緩やかに調整したのですが、以下のような反省すべき点があります。

スケジュールの立て方

夏は疲れやすいことがわかっていたので、よく遊ぶ日と、ゆっくりできる日が交互になるように予定を組

んでいました。ところがゆっくりするはずの4日目の移動日がハードな一日になってしまいました。移動の徒歩が予想以上にきつかったこと。昼から室内でうどんづくりをして、早めの夕飯、お風呂とゆっくりするはずが、うどんづくりでたくさんのお湯を沸かし、大人数が一同に会したため、室内の気温が高いままで調理・食事をすることになり、体調を崩す子供がいました。

また本来ならこうした状況であれば翌日の午前中のスケジュールをゆるくするのですが、翌日はみんなの森のイベントになっていたため、車などの設備の関係もあって、イベント会場の古民家までどうしても移動しなければならない状況になってしまいました。

夏は特に想定外のことがおきることを予想し、もっと日程調整の自由度を確保しなければならないと痛感しました。

西多摩で運営することのメリット

このことは毎回とても感じています。どこで運営するにしても、スタッフと、道具や、機材の確保は必須なのですが、花咲き村、みんなの森の活動地域であるために、人も、道具もどうにでも調達できます。特に道具に関しては、例えば野外調理で40人分の食事を作るのに火にかけてよい鍋・釜を持っている人はそうはいないと思いますが、それが何とかなってしまう。自宅の鍋を火にかけてしまうと真っ黒になってしまい、とても貸してくれと言えたものではありませんから。

■元気村始まって以来の出来事「サルモネラ感染症の発生」

本当に肝を冷やしました。帰宅した子供が入院し、便からサルモネラ菌が検出されると連絡があったのです。楽しかったキャンプの思いで、気分が一瞬にして吹き飛びました。幸い感染症で、食中毒ではなく、他の子供たちは大丈夫だったのですが、割合が低くとも死亡例もある菌の感染者がでたこと。すでに帰宅し、病院の手にゆだねられた状況では、ただ祈ることしかできませんでした。詳しい報告はこちらにまとめました。

サルモネラ感染症発生に関する報告

http://fuku-genki.minnanomori.org/doc/2014summer_report01.pdf

病院では食中毒の疑いのある菌が検出された場合、保健所への報告義務があります。サルモネラ菌が検出されたことで、食中毒の疑いで参加者の聞き取り調査、プログラムや、食事メニュー、レシピの提供を求められました。調査の結果、食事からの摂取ではないとの判断で感染症の扱いになったのですが、サルモネラ菌は常在菌といってペットなどの動物の腸内にも存在し、感染経路の特定はほぼ不可能ですと保健所から告げられました。

そのため今回の出来事を振り返り、以下のような健康管理対策をたてました。

以下の内容については現在参加者の家庭と話し合っています。

子供を参加させる家庭の意見、私たちボランティアでできることを形にします。

■元気村キャンプ健康管理対策（案）

予防対策

手洗い・うがいの徹底

感染症、食中毒にもっとも効果のある予防であり、逆に唯一の野外活動中の予防対策になります。

- ・環境整備 - 水場に手洗い・うがい用の設備を用意します。
- ・ルールづくり／習慣化 - キャンプ初日のレクチャー／スタッフが率先して実践する・・・ など

管理項目

排便の有無と状態・体温・ようすの記録

管理体制

上記の管理項目はこれまでのキャンプでも記録してきましたが、人的体制、施設設備の問題でしっかりと把握しできていませんでした。そのため、なるべく以下の体制の構築を目指します。

- ・班ごとに大人のリーダーを配置する。
- ・配置する大人リーダーは、なるべく長期間キャンプに参加できる人を募集する。
(子供たちの体調変化に気づき、率直に話せる関係を築く目的で)

管理手法

- ・キャンプ期間中に大人リーダーが子供からの体調の聞き取り時間を設ける。
- ・医療室を必ず確保する（体調が悪い子供を隔離する目的も含め）
- ・排便管理（プログラム日程の中にトイレに行きやすい時間を設ける）

医療受診基準

緊急を要する場合（止血不可能な出血・骨折・意識障害・野外危険生物に襲われるなど、生命に関わる、医療機関でのみ治療が可能な場合）、即座に医療機関での受診を行います。それ以外、子供の体調で以下の状況が続く場合にも医療機関での受診を行います。

- ・朝起きられない
- ・眠ることができない程の咳
- ・下痢、嘔吐を繰り返す
- ・けいれん

- ・30度以上の熱が○日間続き、熱が下がらない。

家庭への連絡と連携

医療機関を受診する場合、また服薬や、健康に関して確認したいことがある場合、緊急連絡先へ連絡いたしますが、お子さん持病や、特徴などがあり、事前にキャンプ運営側に伝えることで適切に子供にの症状に対応できることは事前の体調管理シートへの記入で家庭との連携をはかる。

キャンプ終了後

- ・キャンプ期間中に体調管理に使用した資料を保護者の方へお渡しします。
- ・帰宅して2～3日後の体調確認を行います。集団感染が疑われるようなケースに対応するため。
- ・帰宅後の子供の体調がすぐれない場合、キャンプ運営側への連絡をお願いします。

■福島報告会・福島っこ元気村秋キャンプの実施

10月4日、福島県安達太良にて一泊の秋キャンプを行いました。5家族、スタッフ合わせて総勢25名と賑々しいキャンプとなりました。当初は報告会や、ご家庭との懇親を主目的としていましたが、どうやら彼らの近場で行うこのキャンプは、中学生になってしばらく会っていなかったり、最近キャンプに参加できなかった子供たちとの再会であり、繋がりを保つ場の意味合いが強いなと感じました。

なかなか参加者が同じ時間にそろわず、報告会は個別にお話をさせて頂く形になりました。今回は感染症のことがあって、もっと皆さんと意見交換をしたかったのですが、それはアンケートの形で実施させて頂こうと思います。

また初めての試みで、日程の調整が難しいなか、また夏キャンプの後処理も終わっていない状況で秋キャンプの準備を進めてくれた運営スタッフの皆さん。私たちスタッフへの気遣い一杯の福島のご家庭のみなさん。本当にありがとうございました。この秋キャンプも振り返って、よりよいキャンプにできればと思います。

秋キャンプの詳しい報告はこちら <http://fuku-genki.minnanomori.org/cms/?p=8314>

*なおこのキャンプは参加者（スタッフ・家族を含めた）の実費で運営しました。

■資金・物資援助・施設の状況

資金面

約82万円の収入に対し、80万円の支出でした。収入の内訳は参加費が23.5万円、寄付金が29万円、助

成金が約 30 万円でした。今回はキャンプ直前にもかかわらず福島から西多摩への往復バス代の援助の申し出を（一財）戸沢暢美財団からいただきました。バス代金の助成は予めより資金面で最も求めていたものです。毎回綱渡りで運転してきた中で何とか運営できている状況を本当にありがたく思っております。

物資援助

前回の夏のキャンプにもまして多くの物資援助をいただきました。16 名の方から Amazon 経由で食材や備品の寄付を、2 名の方から直接食材を、そして毎回支援いただいている観音山フルーツガーデンから果物をいただきました。いつも思うのですが本当は自宅でゆっくり、贅沢な気分になって食べたいようなフルーツを僕らのキャンプのために惜しげもなくいただいています。こうした食材・物資の提供のおかげで楽しく、かつ運営コストを下げるできています。

施設

この夏も移動キャンプとなりました。前半は奥多摩町の体験の森、後半はあきる野市の陽谷院という無住職のお寺をお借りしました。両施設とも通常なら私たちの予算では利用できる施設ではないのですが、福島への支援ということで特別の便宜を図っていただきました。毎回こうした便宜を図っていただいているお陰で、何とか低予算で運営できています。

以下余談ですがこうした資金、物資援助、施設の充実は、キャンプの人の充実によって実現されています。

戸沢暢美財団とのつながりを作ってくれたのはキャンプのボランティアスタッフであり、資金・物資提供の呼びかける力が強くなったのは、新たに運営スタッフに加わってくれた人たちのお陰の部分がたぶんにあります。施設に至ってはキャンプリーダーのつながりによる紹介であり、陽谷院に関していえば、前回キャンプ時に訪れたあきる野市五日市郷土館で館員の方が教えてくれた施設です。つまり、さまざまな人のつながりと支えによって何とか運営し、少しずつ安定しているのが私たちのキャンプの現状です。

■次回に向けて 子供たちの成長をお父さん、お母さんへ

このキャンプが始まって以来いい続けていることですが、お父さん・お母さんの心が満たされる瞬間のひとつに、子供の成長を感じる時が挙げられると思います。僕らのキャンプは子供たちの笑顔で彼らを喜ばせたいと願ってきました。その点で今回のキャンプはよいテーマをもらったかな？と感じています。

第 2 期ともいえる元気村キャンプ、子供たちの力関係が変わり、仲間作り、居場所作りもまた新たに始まりました。悪く言えば子供たちのケンカや、揉め事が増えたのですが、それは同時にこの元気村がひとつにまとまっていく機会をもらえたのだと思います。

前回まとめた「やりたいキャンプ」、多くの子供たちが「男女関係なく、仲良くしたい！」と書いています。

子供たちは感じているのです。そのほうよいのだということを。理屈ではないのかもしれませんが。

どうすればそうした子供たちの素直な部分に光を当てることができるのか？一つにまとまっていけるのか？他者を理解すること、仲良くなることの大切さを経験することができるか。1 週間のキャンプでは難しい課題のように思いますが、運営スタッフと相談しながら進めてみたいと思います。

どうか次の春にも無事楽しいキャンプができるように、ご支援の程、よろしくお願いいたします。

協 力

NPO 法人 花咲き村 <http://www.hanasakimura.or.jp/>

観音山フルーツガーデン <http://www.kannonyama.com/>

奥多摩町都民の森 体験の森 <http://www.tomin-no-mori.jp/>

あきる野市 陽谷院

日の出町 大久野中学校

寄付 16名様 総額 399,000 円

物資提供 18名様 総額 10 万円相当

以上